

仙台ひまわり訪問看護ステーション

症 例 概 要 利用者：要介護4 70歳代 女性

利用期間：2021年11月中旬～看護師介入、6日後～リハビリ 現在に至る

基本情報：夫、長女夫婦の4人暮らし

疾患：右乳癌、多発リンパ節、肺、骨転移 経過：2020年1月頃から右乳房腫瘤自覚していたが、姑の介護あり未受診。8月頃から左上肢脱力出現。9月頃起居動作困難→歩行困難となる。入院にて化学療法、放射線治療、リハビリ実施するが、下肢完全対麻痺のままベッド上での生活となる。上半身に運動制限はなし。看護は体調管理、排便コントロール、排尿管理、胸部処置、緊急時対応で、リハビリは下肢尖足・拘縮予防、リンパ浮腫予防、車椅子移動（それにより生活範囲と楽しみの拡大）、残存筋力の維持目的にて介入する。

内 容

ご病気になる前は、神様、仏様の毎日のお勤め、庭のお手入れやお姑様の介護も含め、家事の一切を一手に担いつつ、合間に山菜とりにでかけたり仲間とゲートボールをするなど、あらゆることをスペシャルにやっていたのけるパワフルウーマンの利用者さんでしたが、突然、長く治療が必要な病気と闘うことになりました。更には胸筋浸潤に伴う治療や脊椎転移の影響で対麻痺となりベッド上寝たきりとなった事で、様々な不安を抱えていました。ご家族も献身的に介護していましたが、体調面や処置方法への不安が強い状態でした。利用者さん、ご家族の不安や介護負担を軽減するため、看護とリハビリが介入する事になりました。

リハビリ介入当初は体力低下のため疲れやすく、長時間の車椅子乗車が難しい状態でした。両下肢はほぼ感覚が無く動かす事が出来なかったため、利用者さんもご家族も移乗動作に不安感が強い状態でした。胸部創部からも少量の出血や浸出液が見られており、一時大量出血にてリハビリ休止し、毎日看護師が対応する場面もありました。看護による排便コントロールや創部処置等のサポート、ご家族も日々の処置や足のマッサージ等献身的に介護を続け、創部出血の状態は徐々に改善していきました。

全身状態が安定してきたことで利用者さん、ご家族も離床に対して前向きになり、リハビリ再開後は車椅子への離床も積極的に実施するようになりました。利用者さんから「車椅子に乗ってうちの中を回りたい」「台所に行って、娘に直接うちの料理の味を伝授したい」と前向き発言も増え、モチベーションの向上が見られました。その為、リハビリでは、長時間車椅子に起きていられる様体力の向上と、ご家

族介助で車椅子に移乗出来る事を目標に介入しました。定期的な化学療法の効果もあり、両下肢の動きや感覚は徐々に改善が見られるようになり、体力も改善してきました。車椅子移乗動作の介助方法をご家族にも分かりやすく伝える為に書面を作成し、それを基に介助指導を実施した事で、利用者さん、ご家族共に車椅子移乗時の不安感も軽減してきています。

現在は長時間車椅子乗車も疲れにくくなり、神様や仏様を拝んだり、ご主人と一緒に色づく春のお庭を眺めながら会話を楽しむなどされ短期目標達成しました。今後は台所で皆様と食事を取ったり、娘様に家庭の味を伝授する時間を作れる事を目指しつつ、利用者さんの前向きな気持ちを大切に受け止め、スタッフチームで可能な限り試行錯誤と創意工夫を繰り返しながら、ご夫婦の笑顔が一日でも長く続くようサポートしていきたいと思ひます。